

11月11日～12月12日  
電池月間

電池の日  
11月11日  
+ -  
12月12日  
バッテリーの日

# でんち

社団法人 **電池工業会**  
BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN  
〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8  
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)  
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp  
ホームページ http://www.baj.or.jp/  
振替口座 東京8-91022  
発行人 木村侃丘  
定価1部郵送による年決め2,400円

平成15年7月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

## 欧州蓄電池協会(EUROBAT)の総会に出席

6月4、5日、フランスで開催されたEUROBATの理事会、総会に日本より木村専務理事が出席した。

本年4月、日本で開催された日欧蓄電池製造会社代表者会議で、EUROBATのロイシュナー会長より理事会・総会に出席要請があり、その招待に応じ出席したものである。

### 1. EUROBATの概要

- ・ 欧州全域の鉛蓄電池製造、販売企業(産業用、自動車用が主体)18社が正会員、製品材料の関連企業18社が賛助会員の構成になっている。
- ・ 会員企業の総従業員数は、約4万人を数え、年間1億5千万個の電池生産と8200億円の生産金額規模である。
- ・ 日系企業としては、ユアサコーポレーション(英)が正会員として活動している。

### 2. 理事会・総会概要

- ・ 理事会・総会は日本と同様に同時開催(約80名参加)で、議決権は理事会社が留保、前回議事録承認後、2002年の決算報告、2003年、2004年の予算案(何故か2年分)の承認を議決。
- ・ ロイシュナー会長から、4月18日開催したBAJとの東京代表者会議の報告があり、今後の連携をステップアップして行きたい旨の話があった。
- ・ BAJから専務理事が出席しているので意見を述べ

べる機会が与えられた。日欧双方の業界に横たわる共通課題として、環境、標準化、可動用燃料電池等の諸問題が存在し、双方での力の結集を図り対応が必要である。

- ① 課題に目標と優先順位を付ける
- ② WGの組織化と取組み
- ③ 双方の業界に利するアウトプットの時期
- ④ 活動にはIT機器を駆使し経済性の追及を図るなどの相互理解が必要である旨の意見を述べた。

- ・ EUROBAT役員改選  
現会長EXIDEホールディング社のロイシュナー氏が退任、新たな会長としてVARTAジョンソンコントロール社のウエーバー氏が選出された。

欧州での、もう一つの重要課題として、電池EU指令改定についての対応がある。回収、再資源化率の設定を望まれているが、EUROBATとしては、域内を中心とした中古車の輸入データー等が未整備であるため、具体的な数値の設定は不可能との公式見解である。

2002年の産業用電池は、前年比2桁ダウン(バックアップ用途14%ダウン)と言う厳しい数値を背負ってはいるが、EUROBATは、ウエーバー新会長の下、自動車用電池の年率3%増等、前向きな目標に向かって力強く歩み始めた。

# 第27回小形二次電池部会開催

平成15年6月12日、機械振興会館において中谷部会長(三洋電機(株))を議長に、第27回小形二次電池部会が開催された。

冒頭に、中谷部会長より挨拶があり、続いて木村専務理事の事務局報告と各委員会の活動報告が行われた。



## 1. 中谷部会長挨拶

- 1) 日本の社会はベンダーや材料メーカーに支えられたモノ作りインフラが完備。しかし海外進出で、支えるべきインフラに危機感を感じている。
- 2) 工業会は何をやるべきか、メンバー会社はWin-Winを築いて行くことであり、次世代にキッチリした仕事を残せる価値観で、運営して行きたい。
- 3) 海外進出はビジネス上やむをえないが、先輩のせいで日本の産業がダメになったと言われてはいけない。全てを放出するのではなく、日本の産業を守る核を残して行きたい。

## 2. 木村専務理事挨拶と報告

- 1) 電池は社会生活の細部に行き渡っているだけに、社会への責務が大きい。安全対策、環境対応、更にはPortability、並びに標準化等、多岐の分野で重要になっている。
- 2) 5月16日に理事会と総会を開催した。平成14年度の事業と決算報告、15年度の計画と予算が承認され、6億3,500万円(前年比94%)で運営して行く。
- 3) 理事と役員の間選も行われ、3名が新たに選任、合計16社16名の理事で承認された。  
副会長は、従来の鈴鹿社長(東芝電池)と井植副社長(三洋電機)に加え、新たに石田社長(松下電池工業)が選任され、3名体制となった。
- 4) 小形二次電池再資源化センターも設立3年目を迎えて、外部から評価される段階にきた。2004年は自動車

リサイクル法が施行されるので、鉛蓄電池のリサイクルシステムが必要となって来ている。

## 3. 委員会報告

### 1) 業務委員会

- ・ 2003年第1Qの実績と海外生産分の出荷実績及び世界生産の予測等が報告された。
- ・ 統計手法の確立を目的に作成された統計マニュアル(案)の紹介があった。人が替わっても、データが変わらないようにする。

### 2) 技術委員会

- ・ 分科会活動の8件と共通課題の6件等について進捗状況が報告された。
- ・ IEEE WGの取組みでは、合意されたグループ毎の審議と別に一方的なオフィサー会議が行われたため、両者の相互確認が不十分で審議日程が大幅に遅延している。

### 3) 海外環境委員会

- ・ 欧州委員会が求めたExIAアンケートに対す取組み内容を説明。具体的には、EU対応連絡会を発足し、所定の期日までに工業会の意見書を提出した旨、報告があった。

### 4) PL委員会

- ・ 平成15年度の計画概要が報告された。
- ・ 電池の扱いに関する誤ったアドバイスが公開されたTV番組に対し、工業会の立場をホームページ

で表明してはどうかの提案があった。部会決議として、技術、PL委員会共同で文案を作成し速やかに掲載することになった。

#### 5) 国連対応委員会

- ・継続課題として、IATAへの定義修正の働きかけ状況や、国土交通省や米国DOTとの調整案件に関する検討状況が報告された。

#### 6) 広報委員会

- ・広報年間活動計画に基づく進捗状況の詳細が報告された。なお、ホームページのリニューアルを現在検討中である。

#### 7) 再資源化委員会

- ・産構審ガイドライン対応に関し、小形二次電池に関する考え方が紹介された。また家製協を窓口とした提出ルートにより、審議会報告は7月頃になるとの報告があった。

#### 8) 再資源化推進センター

- ・センター活動に関し、総会の概況や回収実績の推移等報告があった。

#### 4. 審議事項

リチウムイオン電池には、コバルト系とマンガン系があり、「マンガン系リチウムイオン電池の使用済み品」に対するリサイクルの統一对応が不整備である旨の問題提起がなされた。

本件について現状の確認と意見交換の後、部会長より次の要請がなされた。

- 1) 本件は工業会内部でまとめて行く事項である。各社共通問題として社内検討を願いたい。
- 2) 年内を目標に、方向性をまとめることに努め、各社はマンガン系リチウム電池をどうして行くか、また再資源化や技術等の委員会においても、どう対応して行くか検討すること。

## 平成15年度 工業会行事予定表

No.		行 事	日 程	場 所
1	主要会議	正賛合同会議	9/12~13	名古屋クラウンホテル
2		記者懇談会	11/下旬	機械振興会館
3		理事会	04/1/9	東京プリンスホテル
4		新年賀詞交歓会	04/1/10	東京プリンスホテル
5	イベント	手作り乾電池教室	7/5~8/23	全国13科学館
6	開催	でんちフェスタ	11/8	池袋サンシャインシティ
7		プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式	12/3(予定)	東京プリンスホテル
8	キャンペーン	小形二次電池回収キャンペーン	6/1~11/11	
9	展開	自動車用バッテリー交換促進キャンペーン	11/1~12/31	
10		プロ野球最優秀バッテリー賞クイズ	7/1~10/10	
11	展示会	DIYショー	8/29~31	千葉幕張メッセ
12	出展	ニュー環境展	9/3~6	インテックス大阪
13		交通安全フェア	9/20~21	後樂園プリズムホール
14		自動車点検フェスティバル	9/27~28	横浜赤レンガ広場
15		東京モーターショー	10/22~11/5	千葉幕張メッセ
16		CEATEC展	10/7~11	千葉幕張メッセ

# 新たに取得された蓄電池設備の型式一覧

平成15年5月21日に開催されました「第8回蓄電池設備認定委員会」で承認されました。

蓄電池及び蓄電池設備は以下の通りです。

設備区分	設備の種類	型式認定番号	申請者(取得された登録企業)	型式記号
蓄電池	据置ニッケル・カドミウム蓄電池	03C541	住友商事株式会社	AHH-SA
	小形制御弁式鉛蓄電池	03C35	古河電池株式会社	m
	小形制御弁式鉛蓄電池	03C71	古河電池株式会社	M-L
	小形制御弁式鉛蓄電池	03C72	古河電池株式会社	M-LH
	小形制御弁式鉛蓄電池	03C79	株式会社ユアサコーポレーション	m-L
	小形制御弁式鉛蓄電池	03C24	新神戸電機株式会社	M
	制御弁式据置鉛蓄電池	03C220	新神戸電機株式会社	MSE
	小形制御弁式鉛蓄電池	03C83	松下電器産業株式会社	M-D
蓄電池設備	充電装置	03D595	株式会社 三社電機製作所	CE
	直流電源装置	03A2307	松下電器産業株式会社	RLE
	充電装置	03D599	株式会社 京三製作所	CE
	逆変換装置	03B2087	株式会社 京三製作所	IN
	充電装置	03D600	株式会社 京三製作所	CE
	直流電源装置	03A2308	新神戸電機株式会社	RLE
	直流電源装置	03A3188	日本電池株式会社	RA
	直流電源装置	03A4163	日本電池株式会社	RAE
	充電装置	03D601	日本電池株式会社	CV
	充電装置	03D602	日本電池株式会社	C-E
	充電装置	03D603	日本電池株式会社	CE
	始動用電源装置	03G5098	日本電池株式会社	RLG
	始動用電源装置	03G6187	日本電池株式会社	RL-EG
	充電装置	03D604	株式会社ユアサコーポレーション	CE
	直流電源装置	03A2309	株式会社ユアサコーポレーション	RLE
	直流電源装置	03A2310	株式会社ユアサコーポレーション	RLE
	始動用電源装置	03G5099	株式会社ユアサコーポレーション	RLG
	始動用電源装置	03G6188	株式会社ユアサコーポレーション	RL-EG
	始動用電池の充電装置	03H727	株式会社ユアサコーポレーション	CVG
	始動用電池の充電装置	03H728	株式会社ユアサコーポレーション	C-EG
	充電装置	03D605	株式会社ユアサコーポレーション	CE
	直流電源装置	03A2311	株式会社ユアサコーポレーション	RLE
	充電装置	03D606	富士電機株式会社	CV
	充電装置	03D607	富士電機株式会社	C-E
	直流電源装置	03A5027	古河電池株式会社	RK
	充電装置	03D608	新神戸電機株式会社	CE
	直流電源装置	03A2312	古河電池株式会社	RLE
	始動用電源装置	03G5100	古河電池株式会社	RLG
始動用電源装置	03G6190	古河電池株式会社	RL-EG	
外箱	蓄電池外箱	03F275	富士電機株式会社	CB

# 業界動向

## 《電池・燃料電池・太陽電池》

※東京都市大学・工学研究科  
安全な全固体リチウム電池に繋がる電解質・電極複合体を提案した。逆オパールと呼ばれる構造のセラミックス多孔体を作成し、このイオン伝導体で可燃性の電解液を代替する。(5月2日付 日経)

※経済産業省 固体酸化物型燃料電池(SOFC)の研究開発で、システムの実用化を目指す第4期プロジェクトを2004年度からスタートさせる。(5月2日付 化学工業日報)

※日本ガイシ 都市ガス等から効率よく水素を取り出す分離膜の開発に成功した。水素ステーション向けに活用できると見ており、エネルギー大手等に売り込みを狙う。(5月5日付 日経)

※関西電力 800℃で作動する1キロワット級の固体酸化物型燃料電池(SOFC)を開発、世界最高レベルの発電効率である40%を達成した。(5月8日付 日経)

※GMS&ダウケミカル 固体高分子型燃料電池(PEFC)を用いた発電システムを共同で実証・研究し、2006年から商業化へ。(5月9日付 日経産業&日刊工業)

※鐘淵化学工業 絵や文字を自由にデザインできるシーソー太陽電池を開発した。大型施設の窓材等への採用を目指し、14日から本格的な受注活動を開始へ。尚、発電量は1平方メートル当たり38~60ワット(5月14日付 日刊工業)

※東芝インターナショナルフュエルセルズ 送電端の発電効率35%と家庭用で最高効率を達成した700ワット燃料電池を完成、6月に実証機を出荷する。(5月14日付 日刊工業)

※NEC 高出力の有機二次電池を開発した。リチウム電池に比べ短時間に大きな出力を出す事が出来るため、デスクトップPC搭載で停電時に電力供給が可能となりデータ保存ができることになる。2005年に実用化予定。(5月16日付 日経産業)

※日立マクセル 自由に変形できるプラスチック製の色素増感型太陽電池を開発した。2005年度の商品化を目指す。(5月19日付 日経)

※キャノン 電気変換効率13.2%をクリアしたアモルファス太陽電池を開発、事業化に向けた開発に目処をつけた。(5月20日付 日刊工業)

※富士電機 基板にプラスチックを用いる事で軽量化したアモルファス太陽電池を開発、年内に旭化成等建材メーカーと共同で限定販売に乗り出す。(5月20日付 日刊工業)

※トヨタ自動車 2005年愛知万博に一人乗りの電気自動車を出展する。電源は小形リチウムイオン電池。(5月21日付 日経&日経産業)

※東芝 色素増感型太陽電池で、材料の漏れと揮発を抑える事で寿命を5倍以上に伸ばした次世代型を開発した。電気変換効率は7.3%で製造コストは1ワットあたり100円程度を予想中。(5月21日付 日経産業)

## 《商品・技術》

※コクヨ 紙にボールペンで書いた文字や絵を即座にパソコンに取り込める個人向けの電子筆記具を開発、5月6日から発売する。(5月2日付 日経産業)

※ナショナル自転車工業 市場拡大が見込まれる電動アシスト自転車事業を経営の柱と位置付け、業務用販売で05年度50億円を目指す。尚、リチウムイオン電池搭載型自転車が充電の使い勝手から業務用には適していると同社は判断中。(5月5日付 日刊工業)

※(独)通信総合研究所 携帯・PHS・無線LAN3種の無線回線のうち、その時々で最適通信できる回線の自動選択できる技術を開発した。数年後には実用化を予定。(5月5日付 日経)

※トヨタ自動車 電気自動車(EV)の市販から事実上撤退する事を決めた。今後はハイブリッド自動車(HEV)を環境対策の主力と位置付け、技術の成熟を目指す。(5月7日付 日刊工業)

※石川島芝浦機械&東京農工大学 都市ガスから水素を取り出す装置を、従来の5分の1以下のコストで製造する目処付けに成功した。2005年度までに実用化を予定。(5月9日付 日経)

※日本政府&欧州連合 燃料電池や高度道路交通システム(ITS)等、次世代自動車技術の規格統一を共同で進めることで基本合意した、世界標準獲得を目指す。(5月11日付 読売)

※日立造船、産業技術総合研究所&大阪府立大学 カーボンナノチューブ(CNT)を応用したシート触媒を開発、少量の触媒で高活性が得られ、環境浄化用触媒として幅広い利用が期待できる。(5月16日付 日刊工業)

※NEC 19日介護、ガイド等を行う個人向けのロボット事業に参入する旨を発表した。(5月20日付 日刊工業、日経&化学工業日報)

※東レ 信州大学と共同で燃料電池の小型化が出来るフィルム状の基幹部品を開発、2005年度から量産化へ。(5月22日付 日経産業)

※昭和電工 燃料電池車向けの水素燃料市場に参入する。今年中に水素ステーションを川崎事業所に建設、順次拡大する予定。(5月26日付 日経産業)

※松下電器産業 燃料電池を用いた家庭用コージェネレーション(熱伝供給)システムを、2005年3月を目処に発売する。価格は約100万円を予定。(5月28日付 日経、日経産業、電波&化学工業日報)

※三菱商事&フロンティアカーボン ナノテクノロジー材料のフラーレン(球状炭素分子)を用いる事で携帯電話の使用時間を2倍近く延ばす技術を開発、近く部品のサンプル出荷を開始。(5月30日付 日経)

※日立ホーム&ライフソリューション 直径25cmの自律移動型家庭用掃除ロボットの試作機を開発した。2~3年後には商品化、15万円前後で市場投入を予定中。(5月30日付 日経&電波)

## 《環境》

※経済産業省&環境省 国内での排出権取引を、2005年から本格的にスタートさせる方針で、今年度から両省がそれぞれ排出権取引試行事業を始める。(5月1日付 日刊工業)

※政府 「循環型社会形成推進基本計画」で、2010年度を目標とする産業廃棄物の減量化目標として「00年度比で約75%減」を盛り込んだ。(5月32日付 日刊工業)

※三菱マテリアル資源開発 三菱マテリアル社が開発した土壌中の有害重金属の迅速分析法の事業化を発表した。(5月8日付 化学工業日報)

※中央環境審議会 水環境部会水生生物保全環境基準専門委員会は、水生生物保全の観点から亜鉛の環境基準案を決めた。案では淡水域では1リットル30マイクログラム、海域では10~20マイクログラム。(5月9日付 化学工業日報)

※経済産業省&環境省 家電リサイクルの実績を公表した。昨年度全国の指定取引場所が引き取った廃家電は1,015万台で前年度比19%増。(5月13日付 日刊工業&電波)

※野村興産 使用済み蛍光灯の処理施設を関西地区(大阪市)に新設する。本年10月から稼働予定。(5月14日付 化学工業日報)

※環境省&経済産業省 使用済み自動車の解体で生じる廃油、使用済み鉛蓄電池等4種類の廃棄物について、解体業者に分別回収と再資源化を義務付けへ。2004年末に施行予定の自動車リサイクル法の規定に盛り込む。(5月15日付 日経)

※広州(中国) 使用済み電池の収集制度を導入した。(5月15日付 日経産業)

## 《予測・統計》

※電子情報技術産業協会(JEITA) 2003年の中国の世界生産に占めるDVDプレーヤー、携帯電話等4品目の構成比を予測した。それによるとDVDは62%、携帯電話は30%でシェアは急拡大を予測。(5月2日付 化学工業日報)

※インターナショナル・データ(米) 世界の1~3月期の携帯電話出荷台数が1億760万台となり、前年同期比16%増になった旨を発表。カメラ内蔵型の新機種が牽引役。(5月2日付 電波)

※太陽光発電 2002年の国内生産が前年比139.5%の251MWIになった。2003年は300~350MWまで拡大が予想されている。(5月7日付 電波)

※(社)電気通信事業者協会 四月末の携帯電話の契約累計数が前年同月比9.4%増の76,314,600件になった旨を発表した。(5月9日付 日経産業)

※マルチメディア総合研究所 パソコンの2002年度の国内総出荷台数は、前年度比7.4%減の1,124万台で2年連続前年度実績を下まわった。(5月8日付 日経&日刊工業)

※リチウムイオン電池 出荷数量が今年に入り3ヶ月連続で前年同月比50%増になった。モバイル用途が大幅に回復したのが好調の原因で、金額ベースも同30%弱の伸びを続けている。(5月13日付 化学工業日報)

※NECトーキン 今年度下半期に角形リチウムイオン電池の生産能力を、月産700万個に引き上げる。これにより本年度の電池部門の売り上げを前年度比68%増の230億円を目指す。(5月19日付 電波)

※シャープ カメラ内蔵型携帯電話の累計出荷台数が、1,000万台を突破した事を発表、業界初。(5月24日付 電波)

※デジカメ カメラ映像機器工業会(CIPA)の2003年出荷見通し、3,145万台(前年比27.8%増)に対し、メーカーは強気の4,100万台を考えている。(5月26日付 日刊工業)

※カメラ映像工業会(CIPA) 2002年の銀塩カメラの出荷台数は、世界で2,366万台、前年比17%減少した。2003年もさらに約15%の減少が続く世界出荷は2,017万台に落ち込む見通し。(5月27日付 日経産業)

※IDパワー&アソシエイツ(米・調査会社) HEVの普及台数が、2008年までに米国で50万台を突破すると予測を明らかにした。(5月29日付 日経夕刊)

※日本機械工業連合会&日本ロボット工業会 共同で纏めた「ロボット社会創造のための技術戦略調査」で、ロボット産業は今後、生活、医療福祉、バイオ等の新市場が急速に開拓され、2025年には、8兆円産業になると予測中。(5月30日付 電波)

## 《その他》

※経済産業省 企業の社会的責任(CSR)を対象とした新規格案を年内に纏める方針を固めた。11月までに報告書を取りまとめる手筈。(5月13日付 日刊工業)

※日弁連 2005年度までの3年間で、知的財産関連の法律や紛争解決のノウハウに詳しい専門弁護士を約1,000人養成する構想を固めた。(5月22日付 日経)

# 平成15年6月度の電池工業会活動概要

部会	6月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	5日(木)	広報情報発信WGHP会議	ホームページ・リニューアル案の検討
	9日(月)	広報情報発信WG展示会会議	DIYショー、環境展の展示内容検討
	20日(金)	広報二次電池WG	キャンペーン、バッテリー賞、展示会、HP改定の活動
	20日(金)	広報委員会	各種活動進捗フォロー、新提案の審議
二次電池部会	2日(月)	自動車鉛分科会	今年度改正JIS(D5301)の改正作業。IEC会議報告
	3日(火)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキーム審議
	4日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	5日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	5日(木)	資材、(自)リサイクル特別委員会合同	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	6日(金)	用語分科会	SBA「規格票作成マニュアル」制定案の技統委員会指摘事項回答案
	11日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	11日(水)	自動車用電池委員会	H15年度需要動向、自動車電池リサイクルスキーム審議
	11日(水)	(自)直需小委員会	自動車電池の新リサイクルスキームについて
	12日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	12日(木)	小形鉛分科会	今年度改正のSBA(キュービクルの熱設計の指針)の内容。
	13日(金)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	17日(火)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	17日(火)	電気車鉛分科会	今年度改正のSBA(小形電動車電池の規格)の内容。
	18日(水)	(自)リサイクル特別委員会	リサイクラーとの研究会、自動車電池リサイクルスキーム審議
	19日(木)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキーム審議
	20日(金)	資材委員会	再生鉛の利用について
	20日(金)	資材小委員会	共用金型、共通部品の検討
	20日(金)	(自)市販小委員会	新リサイクルスキーム広報について
	20日(金)	据置鉛分科会	今年度改正のJIS(C 8704-1:ベント形)原案の様式チェック
	24日(火)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	25日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	26日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
27日(金)	(自)需要予測小委員会	需要予測データのフォロー検証等	
28日(土)	(自)技術サービス小委員会	今年度改正予定のSBA(設計者向け安全指針)改正案(最終案)	
小形二次電池部会	10日(火)	IEEE対応WG	5月IEEE会議の結果と今後の対応審議
	11日(水)	工場環境委員会	土壌汚染対策法のまとめ及び各社情報交換
	12日(木)	小形二次電池部会	各委員会の活動内容報告
	13日(金)	再資源化委員会アルカリ分科会	回収量アップにむけた廃棄ルートの確認調査方法の検討
	18日(水)	リチウム2次分科会	メカニカルテスト(IEC61959)の落下条件変更対応確認、JIS原案作成審議
	20日(金)	新種電池研究会	活動内容・情報等の意見交換
	23日(月)	ニカド・ニッケル水素分科会	IEC61951-1高温性能に関する審議、JIS原案作成審議
	24日(火)	業務委員会	5月度販売状況の検討及び統計資料に関する課題の整理等の審議
26日(木)	再資源化委員会	産業構造審議会ガイドライン対応および回収量アップ対策審議	
一次電池部会	3日(火)	環境対応委員会	自治体の一般廃棄物処理実態を8月末までに実施
	5日(木)	循環技術委員会	自治体の一般廃棄物処理実態を8月末までに実施
	6日(金)	八戸製錬(株)見学会(循環技術委員会調査活動)	乾電池処理の現状と技術調査
	20日(金)	JIS小委員会	JIS「一次電池通則」改正審議、補聴器用空気電池消費者啓蒙策の審議
	20日(金)	IEC小委員会	IEC/TC35関連審議(LR6デジカメ用試験、時計用電池メンテナンスなど)
	20日(金)	IEC小委員会/リチウムWG	IECリチウム電池輸送安全規格、リチウム電池の安全性規格の審議
27日(金)	一次電池技術委員会	各小委員会審議状況の承認、一次電池課題の審議	

## ●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

### 業界初<sup>※1</sup>、ハイパワー白色LED採用で明るさ約10倍<sup>※2</sup>アップ リチウムハイパワーLEDヘッドランプを発売 業界初<sup>※1</sup>、マイコン搭載による6段階の調光機能を実現

ナショナルマーケティング本部は、業界で初めて<sup>※1</sup>ハイパワー白色LEDを採用し、当社従来品比<sup>※2</sup>明るさ約10倍アップした「リチウム ハイパワーLEDヘッドランプ」を7月20日から発売します。

近年、登山や釣り分野において、小型・軽量で長寿命なLEDライト商品の使用が増加していますが、従来のLEDライトでは歩行中の足元を照らしたりするには十分な明るさが得られないため、従来商品<sup>※2</sup>は、光源にLEDと豆球を併用しており、光源の切替えが必要でした。

本製品は、光源にハイパワー白色LEDを採用し、従来の白色LEDに比べ、約10倍<sup>※2</sup>の明るさを実現しました。また、マイコンを搭載することにより、6段階の明るさを調整することができます。

さらに、照射部に高性能非球面レンズを搭載し、レンズ集散光機能を実現しました。

これにより、一つのLEDで、使用状況によって必要な明るさを調節でき、手元と前方照射をシーンによって使い分けることを可能にしたヘッドランプを発売します。

#### — 特長 —

1. 業界初<sup>※1</sup>、ハイパワー白色LEDの採用で当社従来品比<sup>※2</sup>明るさ約10倍アップ
2. 業界初<sup>※1</sup>、マイコン搭載により使用状況に適した明るさを自由に選べる6段階の調光機能を実現
3. 高性能非球面レンズを搭載し、レンズ集散光機能を実現
  - ・LEDひとつで手元をムラなく照らす集光、歩行中の足元を照らす散光を実現

※1 ヘッドランプの中で/2003年5月31日現在当社調べ

※2 当社商品 BF-I99P LED部との比較



リチウムハイパワーLEDヘッドランプ BF-263P 松下電器産業株式会社

## 4月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成15年4月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	504,248	55,348	98%	101%	1,970,034	227,927	104%	104%
全電池合計	503,344	54,137	98%	102%	1,966,826	222,868	104%	105%
一次電池計	375,037	12,465	99%	87%	1,436,184	47,995	105%	97%
マンガン乾電池計	78,808	1,338	91%	74%	298,708	5,644	86%	81%
単一	7,745	352	81%	69%	35,483	1,688	93%	86%
単三	42,042	540	92%	76%	152,627	2,146	80%	76%
その他	29,021	446	93%	75%	110,598	1,810	93%	81%
アルカリ乾電池計	112,522	5,745	100%	90%	440,620	21,816	113%	103%
単三	71,111	3,122	99%	88%	285,124	12,088	116%	104%
単四	23,747	1,122	102%	98%	87,168	4,006	107%	97%
その他	17,664	1,501	98%	89%	68,328	5,722	113%	104%
酸化銀電池	88,178	950	106%	102%	323,463	3,602	110%	107%
リチウム電池	89,565	4,160	98%	84%	352,206	15,987	113%	97%
その他の乾電池	5,964	272	104%	87%	21,187	946	88%	79%
二次電池計	128,307	41,672	95%	107%	530,642	174,873	100%	107%
鉛電池計	2,795	8,196	96%	93%	12,956	44,273	97%	95%
自動車用	1,555	4,650	100%	94%	7,605	23,349	103%	97%
二輪用	357	727	99%	102%	1,529	3,066	96%	99%
小形シール	720	741	88%	88%	2,946	3,319	84%	92%
その他	163	2,078	99%	90%	876	14,539	90%	93%
アルカリ電池計	62,883	7,771	71%	78%	279,456	34,330	78%	81%
完全密閉式	35,130	3,902	87%	87%	141,808	16,249	91%	93%
ニッケル水素	27,683	3,780	57%	71%	137,430	16,920	69%	73%
その他のアルカリ電池	70	89	241%	47%	218	1,161	220%	64%
リチウムイオン電池	62,629	25,705	145%	128%	238,230	96,270	149%	129%
器具計	904	1,211	102%	82%	3,208	5,059	103%	87%
携帯電灯	471	398	104%	81%	1,713	1,611	105%	93%
電池器具	433	813	101%	82%	1,495	3,448	101%	85%

## 4月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成15年4月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	284,308	31,392	103%	108%	1,060,653	112,930	102%	102%
一次電池計	175,686	3,414	112%	105%	618,372	12,750	106%	100%
マンガン	47,525	384	100%	98%	172,865	1,497	90%	96%
アルカリ	23,412	487	204%	222%	90,327	1,831	160%	172%
酸化銀	42,210	500	114%	111%	124,964	1,597	96%	97%
リチウム	60,841	1,968	104%	93%	223,434	7,611	114%	94%
空気亜鉛	1,474	26	87%	80%	5,830	102	70%	62%
その他の一次	224	50	71%	128%	952	112	73%	79%
二次電池計	108,622	27,978	90%	109%	442,280	100,179	96%	102%
鉛蓄電池	321	570	70%	73%	1,219	2,539	73%	87%
ニカド	28,340	2,659	82%	83%	114,974	10,367	88%	83%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	12	4	24%	33%
ニッケル水素	20,412	2,451	56%	68%	106,155	10,820	70%	75%
リチウムイオン	48,656	19,199	133%	118%	177,984	66,464	135%	112%
その他の二次	10,894	3,099	90%	159%	41,935	9,985	92%	117%
全電池合計(輸 入)	50,425	3,761	107%	98%	228,888	16,439	140%	108%
一次電池計	46,986	1,142	107%	65%	214,277	5,192	141%	98%
マンガン	8,501	119	96%	90%	49,865	649	132%	116%
アルカリ	34,848	664	121%	117%	150,249	2,790	150%	124%
酸化銀	102	2	25%	28%	317	7	19%	21%
リチウム	1,023	100	57%	47%	4,002	366	88%	67%
空気亜鉛	482	12	768%	125%	2,021	60	168%	107%
その他の一次	2,030	244	49%	30%	7,824	1,320	126%	71%
二次電池計	3,439	2,619	112%	127%	14,611	11,247	120%	113%
鉛蓄電池	446	1,196	99%	104%	1,981	5,521	107%	107%
ニカド	1,442	403	91%	111%	7,411	1,405	134%	85%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	1	0%	14%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,551	1,020	151%	183%	5,219	4,320	109%	138%